

主義改造までであって、それ以後、企業占有することが許されなくなった。政治的レッテルを貼るというのは、もちろん主観的イデオロギーによる階層である。したがって、この時期の社会階層は実際に政治的意味での階層である。

中国の政治的階層の変遷は前後の二つの段階に分けることができる。1949年から文化革命の終わりまでは第一段階である。文化大革命の終わりから今日までは第二段階である。第一段階の特徴は政治的格差が社会の主導的地位を占めたが、政治的格差は極端に大きい一方で、経済的格差が比較的小さかった。第二段階では経済的格差が主要地位を占めたが、政治的格差が明らかに縮小した。

われわれはまず第一段階の状況を見てみよう。中国文化大革命の終わりまで、政治闘争は異常に激烈で、政治運動は連綿不断であったが、社会全体は一種の突出した政治的雰囲気に取り囲まれ、それ故に、政治的地位は経済的地位より一層重要なものになる。

当時、社会での政治的階層はいくつかの系列があったが、もっとも重要なのは階級的区分であった。階級的区分は二つあるが、一つは本人出身階層の区分で、もう一つは出身家庭の区分である。

本人の出身階級にしても、出身家庭にしても、当時の政治的階層の原則によると、基本的には階層は三分法であった。出身階級（あるいは出身家庭）による区分は、出身階級（あるいは出身家庭）の良いもの、出身階級（あるいは出身家庭）の悪いものと、中間状態（出身家庭普通のもの）にあるものであった。当時の出身階級の良いものは、労働者、貧農、下中農、革命幹部、革命軍人、革命烈士の家族などである。出身階級の悪いものは、地主（悪覇、軍閥、旧官僚、破産地主、管公堂⁹⁾等を含む）、富農、資本家、反革命分子、破壊分子、右派分子などである。中間状態にあるものは、中農（富裕中農を含む）、知識分子、自由職業者（職員を含む）、宗教職業者、小手工業者、小商業者、小売者などである。文化大革命時期になると、いわゆる“紅五類”、“黒五類”の説が出てきた。それぞれ上記の出身階級の良いものと悪いものの集団を指す。それによって政治的階層格

差が嚴重な政治的差別に発展した。

このほかに、政治的様相によって、中国共産党員、普通群衆、歴史的に問題ある人に分けていた。政治的態度によって、単位の積極分子、単位の落後分子と表現一般の従業員に分けていた。社会関係の複雑さによって、社会関係複雑、社会関係簡単と社会関係一般の人に分けていた。当時の規準によると、社会関係が複雑になればなるほど（例えば海外との関係を持つことで）、政治上の信頼度は低くなり、社会関係が簡単になればなるほど政治上の信頼度は高くなる。

政治的階層の本来の意味から言うと、それは経済的利益とは直接に繋がらない。政治的法律秩序が保障された時期では、政治的階層の地位の高低と経済的階層の地位の高低はほとんど相関関係を示さない。例えば資本家の政治的地位は非常に低いが、経済的地位、生活レベルが高くなる可能性である。または、右派のレッテルを貼られた後、政治的地位はどん底に落ちて、経済的地位、生活レベルは不変に保つことができる。もちろん、文化大革命の動乱年代では、政治的法律秩序が保障されることはなく、ひいては“家財を没収する”ような行為は別次元のことである。

社会秩序の正常の年代では、政治的階層と経済的階層は直接に繋がらないとすれば、政治的階層の社会的意義は何処にあるのだろうか。筆者として、政治的階層が果たした役割は主に政治的闘争に現れ、イデオロギー、社会輿論と社会心理に現われる、と考えている。出身階級の悪い人は歴代の政治運動の攻撃対象となり、彼らはいつも反面教師の役割を担われた。新聞、ラジオまたはその他のメディアの中で、彼らはいつも政治批判の対象にされた。世の中で、彼らの声望は非常に低く、人にばかにされたりする。日常生活の中で、彼らは大衆の信用を失った集団であり、何か問題が起こされた時、彼らはいつも最初に疑われる対象であった。このように、時間が経てば経つほど、彼らの心に心理的圧力が形成され、重苦しい劣等感を持ち、ひいては人格の歪みが生じる。

もう一面では、政治的階層も個人の生活機会に深く影響する。それは特に出身家庭が個人に与え

9) 原注①p. 39 “管公堂”は中国解放初期、土地改革出身区分を行った時の出身階級であり、各種の祠、廟、会、社の土地財産管理者を指す。